

「この人 42」

松尾 軍治 67歳 東京都

編集部 俳句を始められたきっかけは？

松 尾 子どもの頃、母は短歌、父は落語が好きで、正月には百人一首をするという家庭に育ちました。短歌は学生の頃に詠んだこともあります。俳句は学校で習っただけで、どこかの結社に入ったり、句会に出るということもありませんでした。それが、五～六年前だったでしょうか、朝日新聞で八木健会長の文章を読んでから、俳句をつくるようになりました。滑稽俳句は、いわば、母の短歌と、父の落語のコラボですね。

編集部 滑稽俳句の魅力とは？

松 尾 自由の風を感じますね。それと、やはり俳句において滑稽は、俳句の本質であり、核ですからね。

編集部 滑稽俳句を続けていて、良かったと思われることはありますか。

松 尾 今は特には良かったと思いませんが、死ぬ時には、良かったと思いたいですね。

編集部 いい滑稽俳句を詠むコツは何でしょう。

松 尾 あれば、教えていただきたいです。ただただ、句を詠み続けることではないでしょうか。

【代表句】

木の中の水の流れや春の音
ぼんぼりの明りを消してひな遊び
クリスマスチキン食う日となりけり
ここ掘れと鳴かぬ犬抱き日向ぼこ
冬ざれに明日への願いともしりけり（東日本大震災）